

第105期

株主通信

2018年4月1日～2019年3月31日

KITZ
株式会社 キッツ

株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は、格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。ここに第105期株主通信をお届けいたします。

第3期中期経営計画の最終年度である当期は、バルブ事業の売上高が初めて1,000億円を超えるなど大幅な増収となり、営業利益、経常利益は過去最高となりました。

2030年を見据え、さらなる成長を目指すため、この度、2021年度を最終年度とする第4期中期経営計画を策定いたしました。キッツグループ同、新たな目標達成に向け一丸となって邁進するとともに、社会的に責任ある企業として、株主の皆様をはじめ、すべてのステークホルダーに配慮した経営の実現に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2019年6月

代表取締役社長 堀田 康之



エミール・ガレ
セイヨウオキナグサ文台付花瓶

制作年：1894-1900年
高さ：20.5cm

アネモネの仲間オキナグサ属の中で、白い花を咲かせる品種をモチーフにしたカメオ彫りの作品です。カメオ彫りとは、色の異なるガラス層を重ね、上の層を削り取ることで、模様を作り出す高度な製法。手彫りの極致とも言える名人芸で、ガラスの表面を細かく彫り込んだ逸品です。

北澤美術館所蔵

キッツは、社会貢献活動の一環として公益財団法人北澤美術館の活動を支援しています。

キッツグループは、2016年に策定した第3期中期経営計画(2016～2018年度)が終了したことに伴い、新たに第4期中期経営計画(2019～2021年度)を策定しました。

当期の業績及び第4期中期経営計画について堀田社長に伺いました。



代表取締役社長 堀田 康之

当期の連結業績の概況

Q 当期は大幅な増収となりました。

A バルブ事業で1,000億円超えを達成

当期の連結売上高は、前期比120億71百万円増の1,366億37百万円と大幅な増収となりました。

バルブ事業が、前期比118億6百万円増の1,099億69百万円となり、バルブ事業セグメント単独で初めて1,000億円を超えました。国内市場では、建築設備向けの好調に加え、製造業の活発な設備投資により、工業市場向けの売上も伸長しました。海外市場でも、各エリアで堅調に推移した他、中東の大型天然ガス処理プラント案件への納入もあり、前期に比べて売上を伸ばしました。第4四半期に減速したものの、半導体製造設備向けも増収に寄与しました。また、伸銅品事業も1億7百万円の増収となり、その他(サービス関連の事業)も1億57百万円の増収となりました。

Q 営業利益、経常利益も増益となりました。

A 営業利益、経常利益は過去最高を更新

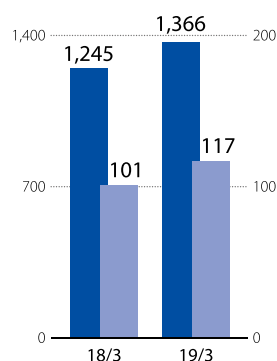
バルブ事業では、部品・副資材及び物流費用の上昇や販売費及び一般管理費の増加はありましたが、増収に伴う増益と製造コストの削減に加え、価格改定効果もあり、営業利益は21億40百万円増加しました。一方、伸銅品事業においては、原材料相場の変動の影響により、4億12百万円の減益となったものの、その他(サービス関連の事業)は、宿泊客の増加とコスト削減効果によりホテル事業の業績が改善し、黒字に転換しました。これらの結果、連結営業利益は前期比15億95百万円増の117億13百万円となり、2008年3月期の116億15百万円を超え、過去最高益を更新しました。経常利益も前期比21億50百万円増の118億83百万円となり、2007年3月期の106億52百万円を超え、こちらも過去最高となりました。なお、親会社株主に帰属する当期純利益については、のれん等の減損損失(24億83百万円)を計上したことにより、8億92百万円減の56億25百万円となりました。

セグメント別売上高・営業利益

(単位：億円)

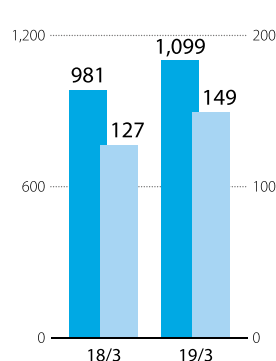
連結

■ 売上高(左軸)
■ 営業利益(右軸)



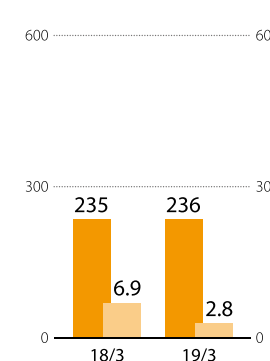
バルブ事業

■ 売上高(左軸)
■ 営業利益(右軸)



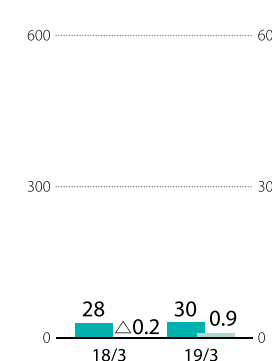
伸銅品事業

■ 売上高(左軸)
■ 営業利益(右軸)



その他

■ 売上高(左軸)
■ 営業利益(右軸)



第3期中期経営計画の総括

Q 第3期中期経営計画の最終年度が終了しました。売上高や利益の実績は、計画に対してどのような状況だったのでしょうか。

A 数値目標を前倒して達成

第3期中期経営計画の売上高と営業利益の数値目標に対しては、前倒して達成することができました。最終年度の売上高は、計画を166億37百万円(13.9%)、営業利益についても計画を17億13百万円(17.1%)それぞれ上回りました。

Q 計画を達成できた要因をどのように分析されていますか？

A 市場環境の好転と半導体製造設備向けの活況

第3期中期経営計画期間のバルブ事業の国内市場は、建築設備向けが首都圏再開発案件を中心に堅調に推移したことに加え、製造業全般において設備更新や増産のための設備投資が活発に行われたことにより工業市場向けが好転し、売上が伸長しました。原材料の他、部品・副資材及び物流費の高騰を受け、2年続けて実施した価格改定も寄与しました。海外市場においても、代理店の在庫調整が終わり、売上が回復しました。2018年度の第4四半期からは調整局面となりましたが、最も業績に貢献したのは半導体製造設備向けです。データセンターやサーバー、スマートフォン向けの需要が好調に推移し、韓国資本及び中国ローカルのメモリーメーカーを中心に投資が継続されたことが要因として挙げられます。損益面では、増収や価格改定効果に加え、コスト削減の効果が大きかったと考えています。従来のコスト削減活動に加え、第3期中期経営計画の基本方針に従い、製造設備の更新やロボットの導入など、生産性の向上につながる設備投資を積極的に行ったことが増益の一因になったものと考えています。

Q 第3期中期経営計画の総括をお願いします。

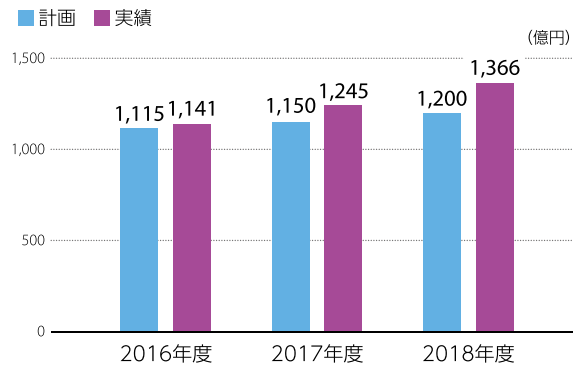
A さらに成長に向けた投資を実行

お話ししました通り、売上高、営業利益などの数値目標は達成することができました。さらなる成長に向け、韓国のパタフライバルブメーカーCephas Pipelines Corp.及び韓国の中空糸膜メーカーFilcore Co., Ltd.を買収した他、マレーシア、ベトナム、香港及び韓国に現地販売法人を設立しました。旺盛な半導体市場に対応するため、株式会社キッツエスシーティーの新田SC工場にシステム製品専用工場を新設するとともに、現地生産法人であるKITZ SCT Corporation of Kunshanに第2工場を建設、また、伸

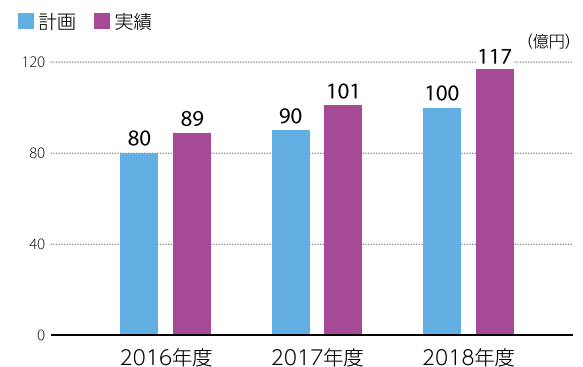
第3期中期経営計画期間の売上高と営業利益

グラフ及び表の計画値は2016年5月に策定した第3期中期経営計画策定時の数値

売上高



営業利益



セグメント別売上高

	2018年度計画		2018年度実績	
バルブ事業	▶	100,000	▶	109,969
伸銅品事業	▶	16,500	▶	23,643
その他	▶	3,500	▶	3,025
合計	▶	120,000	▶	136,637

セグメント別営業利益

	2018年度計画		2018年度実績	
バルブ事業	▶	13,150	▶	14,938
伸銅品事業	▶	100	▶	287
その他	▶	150	▶	90
調整額	▶	△3,400	▶	△3,602
合計	▶	10,000	▶	11,713

銅品事業を担う株式会社キッツメタルワークスでも大規模な設備更新を実行中です。現在は、フィルター事業を担当する株式会社キッツマイクロフィルターの新工場の建設が進んでいます。

一方、Cephas Pipelines Corp.ののれん等については、外部

環境の急激な変化があったとはいえ、買収した年度のうちに減損損失を計上せざるを得ない状況に至りました。本件については真摯に受け止め、今後の買収監査及びPMI(買収後の統合)に活かしてまいりたいと考えています。

第4期中期経営計画

Q 中長期の目標を教えてください。

A 2030年を見据えて

第4期中期経営計画を策定するにあたり、2030年に目指す姿を明確にしました。定量的には、売上高は年平均成長率4%、EPS

(1株当たり当期純利益)は年平均成長率7%、経営の効率性を示すROE(自己資本当期純利益率)については、12%を掲げました。第4期中期経営計画は、これに向けた成長へのステップにしたいと考えています。

キッツグループが目指す姿

1. 2030年に向けたビジョン

- ワールドクラスのテクノロジー、エンジニアリングをお客様に提供し、エネルギーシフトや循環型社会への対応を通じて、環境負荷の低減に貢献する。
- ICT活用により、ビジネスモデルの変革と製品開発力の強化を図り、成長市場において強固な地位を築く。
- 各国地域経済の成長とともに、グローバルな社会インフラの発展を支える。
- 公正かつ透明なルールの下、社員が生活をより良くし、より安全に、より健康に働くことができる企業を目指す。

2. マネジメントのあり方

- 経営管理情報をグローバルに同期させ、進化したグループ連結経営を行う。
- 人財・資産・資金をグループ全体最適の観点から、配分・活用する。
- グローバルでサプライチェーンの「見える化」を図り、シンプルな意思決定の仕組みを経営の中に取り入れ、省力化投資を行い、労働生産性向上を図る。

3. 定量目標

- 2030年に向けた定量目標としては以下を掲げ、バルブ事業において「Global Strong No.2を目指す」ことを中長期の目標とする。

成長性	収益性	効率性
売上高 年平均成長率 4%	EPS 年平均成長率 7%	ROE 12%

Q 第4期中期経営計画の具体的な取り組みを教えてください。

A 各市場において戦略的な取り組みを実践

バルブ事業では、2030年に向けて「Global Strong No.2を目指す」をスローガンに掲げています。バルブメーカーのワールドランキング(売上高・当社推定)では、現在、キッツグループを含む4社がほぼ差のない3位グループにいますが、それを確固たる2位に引き上げようというものです。その実現に向けて、戦略的な取り組みを実践していきます。国内市場においては、総合バルブメーカーとして幅広いラインナップをそろえ、あらゆる市場でご採用いただいておりますが、製品ごとに見ると、必ずしもすべてがトップであるわけではなく、シェア拡大の余地はまだあると考えています。第4期中期経営計画では、主要弁種(バルブの形状)及び材質で

シェアNo.1になるべく、お客様の真のニーズに合致した、キッツグループにしか提供できない絶対的な価値やソリューションをお届けしていきたいです。また、海外市場においては、アジア地域のハイエンド(高価格・高品質)市場で一定のシェアを持っていますが、ミドルゾーン(中価格)市場には本格的に参入できていません。最もボリュームがあり、近い将来ハイエンド市場を脅かすことになるとされるミドルゾーン市場に「風穴」を開けたいと思っています。それを実現するために、本年4月1日付で、取締役副社長執行役員を室長とする「アジア汎用弁戦略室」を新たに設置しました。

初年度である2019年度は、半導体製造設備向けの減収や新基幹システム稼働開始に伴う減価償却費の増加により減収減益の計画となりましたが、確実にこれを達成してまいります。

第4期中期経営計画(2019～2021年度)の数値目標

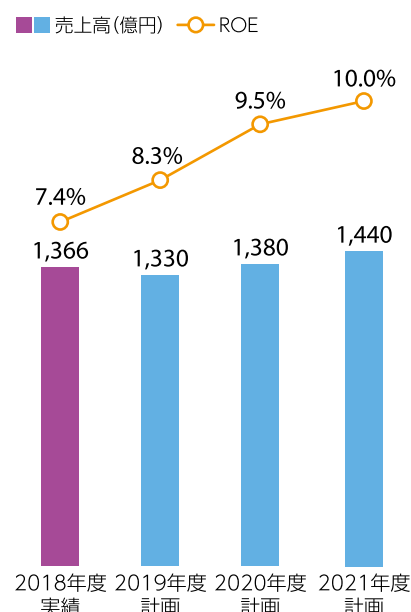
	2018年度実績	2019年度計画	2020年度計画	2021年度計画
売上高	▶ 1,366億円	▶ 1,330億円	▶ 1,380億円	▶ 1,440億円
営業利益	▶ 117億円	▶ 100億円	▶ 125億円	▶ 135億円
EBITDA	▶ 168億円	▶ 167億円	▶ 200億円	▶ 215億円
ROE	▶ 7.4%	▶ 8.3%	▶ 9.5%	▶ 10.0%
EPS	▶ 58.50円	▶ 68.49円	▶ 85円	▶ 95円

セグメント別売上高

バルブ事業	▶ 1,099億円	▶ 1,060億円	▶ 1,100億円	▶ 1,150億円
伸銅品事業	▶ 236億円	▶ 240億円	▶ 250億円	▶ 260億円
その他	▶ 30億円	▶ 30億円	▶ 30億円	▶ 30億円

セグメント別営業利益

バルブ事業	▶ 149億円	▶ 135億円	▶ 155億円	▶ 163億円
伸銅品事業	▶ 2億円	▶ 5億円	▶ 10億円	▶ 12億円
その他	▶ 0.9億円	▶ 0.5億円	▶ 0.5億円	▶ 0.5億円



Q 非財務分野への取り組みはいかがですか。 A ESGへの取り組みを成長の源泉に

昨今、「企業はESG(Environment(環境)、Social(社会)、Governance(ガバナンス)の頭文字)に配慮すべき」との考えが、急速に普及しています。キッツは、メーカーとしての責任を果たすとともに社会から信頼される企業を目指し、環境面においては、CO₂排出量削減を継続的に推進する他、資源の有効活用、廃棄物の削減と再利用・再利用の推進、環境汚染の防止・予防、環境に配慮した商品・サービスの開発と提供に取り組んでまいりました。社会面においては、社員が「働きがい」を感じられる環境を目指し、人財育成プログラムを充実させるとともに、一人ひとりが能力を最大限に発揮できるよう人事制度改革を進めています。また、よき企業市民として社会や地域の皆様のお役に立ちたいと考えており、事業を通しての社会貢献に留まらず、主に事業所が所在する地域社会との共生や環境保全に関わる活動にも継続的に取り組んでいます。ガバナンス面においては、2017年6月より社外取締役を2名から3名に増員し、監督と執行をより明確に分離するなど、社会的に責任ある企業として、すべてのステークホルダーに配慮した経営の実現に努めてまいりました。

この度の第4期中期経営計画では、ESGを重要テーマの一つに掲げました。ESGに関する課題を改めて整理し、実践する仕組みを構築しながら、これまで行ってきた取り組みをさらに進化させ、キッツグループの成長の源泉にしていきたいと考えています。

Q 最後に、株主の皆様メッセージをお願いします。 A 配当性向を10%引き上げ

当期末の配当金につきましては、1株当たり12円とさせていただきます。これにより当事業年度の年間配当金は、中間配当(1株当たり8円)を含め20円となり、1株当たりの年間配当金としては上場以来過去最高となります。配当性向は34.2%となりましたが、今回の配当額は減損損失24億83百万円を除いて算定しており、この場合の配当性向は23.7%となります。また、配当金に加えて、株主様への利益還元として、取締役会の決議に基づき、当期中に2,100千株の自己株式の取得を実施しており、総還元性向は70.1%となりました。

この度、第4期中期経営計画の策定にあたり、配当方針を変更しました。これまで、親会社株主に帰属する当期純利益の25%前後を望ましい水準としていましたが、2020年3月期からは10%引き上げて35%前後とし、配当による株主還元の一層の充実を図ることといたしました。

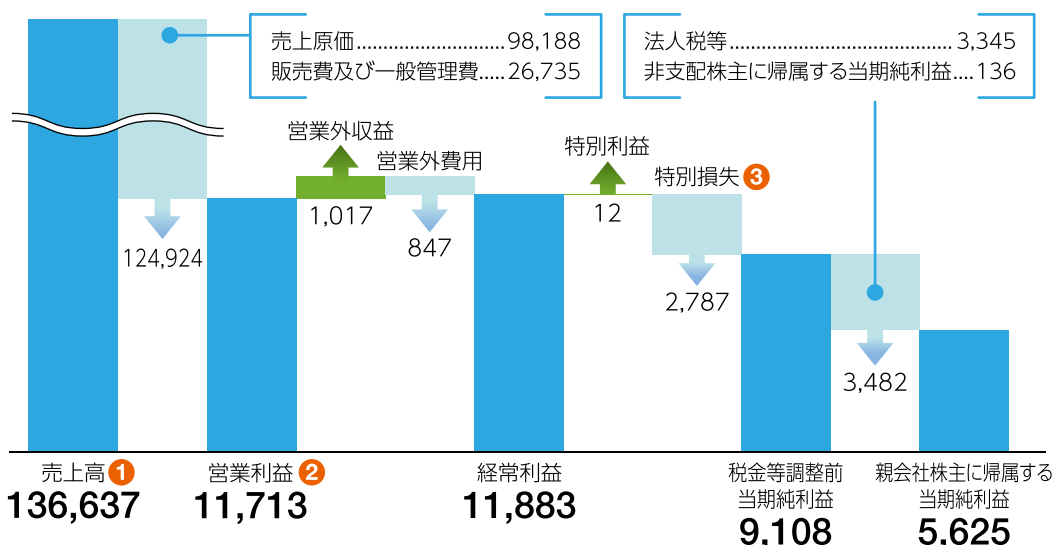
米中貿易摩擦など海外経済を巡る不確定要素や世界的な景気減速の懸念により、事業環境の不透明感は払拭できませんが、新たに定めた目標の達成に向けてチャレンジしてまいりますので、株主の皆様におかれましては、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

業績ハイライト

連結損益計算書の概要

当期 (2018年4月1日～2019年3月31日)

(単位: 百万円)



Point ①

売上高

パルプ事業において、半導体製造設備向け、国内建築設備向けや工業向けが好調に推移したことに加え、海外市場向けも回復しました。また、伸銅品事業においても販売重量の増加により増収となった結果、前期比9.7%増の1,366億37百万円となりました。

Point ②

営業利益

パルプ事業において国内及び海外での増収、製造コストの削減に加え、国内における価格改定効果により、前期比15.8%増の117億13百万円となり、過去最高となりました。

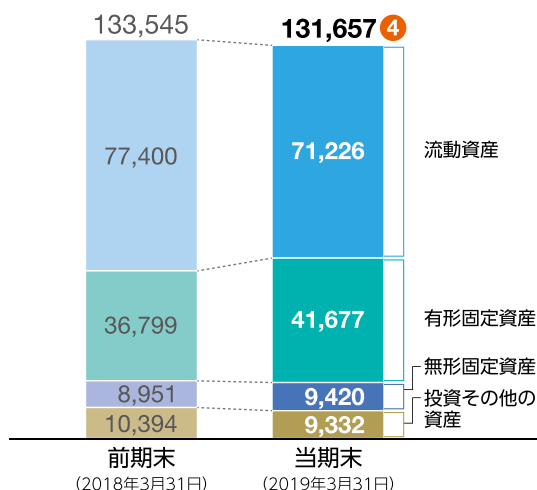
Point ③

特別損失

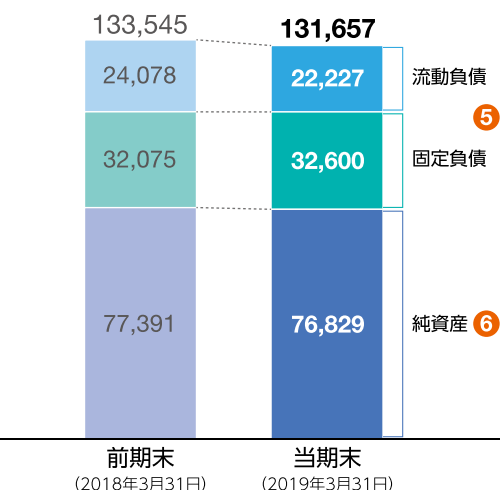
2018年4月に買収した韓国のパルプメーカーCephas Pipelines Corp.の収益性悪化に伴い、のれんを中心に固定資産の減損損失として24億83百万円を計上しました。

連結貸借対照表の概要

資産の部



負債・純資産の部



Point ④

総資産

伸銅品事業における大型設備投資に伴い有形固定資産が増加した他、基幹システム投資による無形固定資産の増加はありましたが、現金及び預金の減少や投資有価証券の減少等により、前期末に比べ18億88百万円減少しました。

Point ⑤

負債

有利子負債の減少及び未払法人税の減少等により、前期末に比べ13億26百万円減少しました。

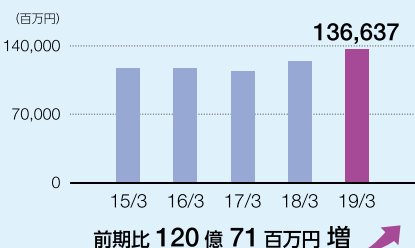
Point ⑥

純資産

親会社株主に帰属する当期純利益56億25百万円の計上はありましたが、配当金の支払いや自己株式の取得により、前期末に比べ5億61百万円減少しました。

主要連結財務指標の推移

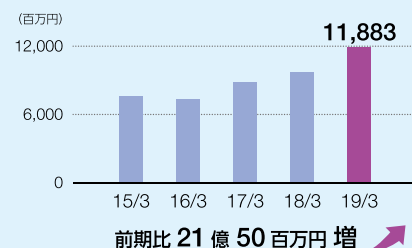
売上高



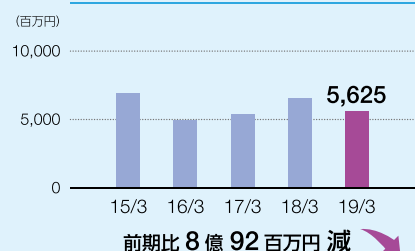
営業利益



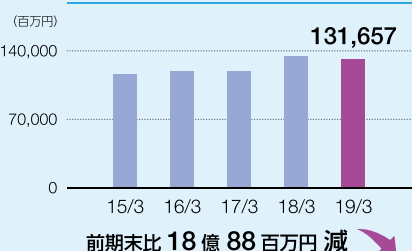
経常利益



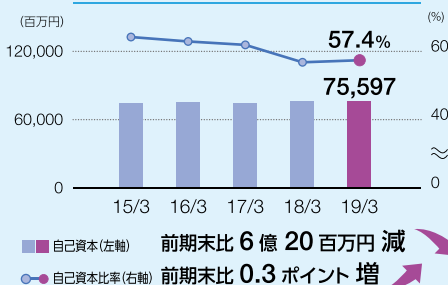
親会社株主に帰属する当期純利益



総資産



自己資本／自己資本比率



※『税効果会計に係る会計基準』の一部改正(企業会計基準第28号 2018年2月16日)を当連結会計年度の期首から適用しており、前連結会計年度の総資産及び自己資本比率については、当該会計基準を遡って適用した後の数値となっております。
※本株主通信中の記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

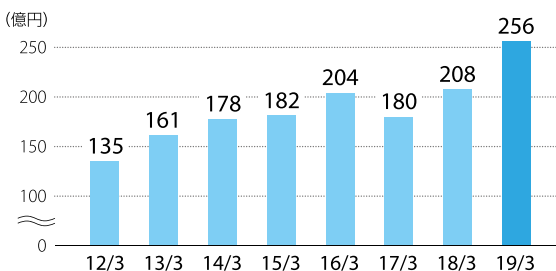
アセアンの拠点展開を加速

アセアンの地域統括会社であるKITZ Corporation of Asia Pacific Pte. Ltd.は、2011年の設立以来、シンガポール、タイ、ベトナム、フィリピン、マレーシアに順次拠点を拡充しており、2018年6月には、インドネシア・ジャカルタに駐在員事務所を新たに開設しました。

また、2016年6月にベトナムに開設した駐在員事務所を現地法人化し、2018年12月、KITZ Valve & Actuation Vietnam Co., Ltd.を設立しました。これにより、ベトナム市場における代理店網の拡充及び営業強化をより一層進めることが可能となります。

今後も、現地のお客様に満足していただける商品・サービスを提供するため、海外拠点のさらなる充実・強化を図ってまいります。

● バルブ事業におけるアジア・中東市場向け売上高



中東の天然ガス処理プラントにバルブを納入

2018年9月、中東の天然ガス処理プラントに約600台のバルブを納入しました。受注製品は、グループ会社のPerrin GmbH(ドイツ)及びKITZ Corporation of Europe, S.A.(スペイン)の製品を中心とした、空圧式アクチュエータを搭載した自動操作バルブであり、すべて欧州から出荷しました。

本案件は、キッツ及びヨーロッパのグループ会社3社が連携して対応した初の大型プロジェクトであり、キッツグループのシナジーを十分に発揮することができました。今後もプロジェクトビジネスの拡大に向け、グループ一体で取り組み、付加価値の高い商品・サービスを提供してまいります。



キッツマイクロフィルター 新工場を建設



新工場完成イメージ図

キッツグループのフィルター事業を担う株式会社キッツマイクロフィルターでは、工業用フィルターの売上が順調に伸びています。半導体関連市場の成長が見込まれる他、医療・ヘルスケア関連分野に向けた製品開発及び市場開拓も進めています。

このような市場の拡大に対応するため、工業用フィルターを増産していますが、現有の設備能力では限界に近づくとともに、医療分野向け製品の生産環境として、クリーンルームの新設が必要であることから、新たな工場を建設することを決定しました。すでに工事は着工しており、2019年9月稼働を目指しています。新工場の稼働により生産能力を向上させ、お客様のご要望に迅速に対応してまいります。

所在地 長野県茅野市金沢5125(キッツ茅野工場 敷地内)

生産品目 浄水器、工業用フィルター

燃料電池フォークリフトを導入

キッツでは、2012年9月より、水素供給インフラ設備に向けて、水素ステーション用超高圧ボールバルブをはじめ、ニードルバルブ、チャッキバルブを加えた「KITZ CLESTECシリーズ」を販売しています。また、2018年4月には、長坂工場に小型パッケージユニットを用いた水素ステーションを建設し、その実証を通じて、今後のバルブ開発のための技術蓄積を行っています。

燃料電池自動車であるトヨタの「ミライ」2台とホンダの「クラリティ」1台を社用車として活用していますが、2019年2月、長坂工場に燃料電池フォークリフトを新たに導入しました。使用時に排出されるCO₂がゼロであり、

環境負荷低減に寄与しています。

今後も、低炭素社会実現に向けた取り組みを継続してまいります。



オフィス製紙機を導入

2019年3月、茅野工場にオフィス製紙機を設置し、稼働を開始しました。使用済みの紙から新たな紙を生産できる本機の導入により、コピー用紙の購入及び書類の廃棄にかかる回収・運搬などのコストが大幅に削減できる他、社内で機密文書を完全に抹消することが可能となるため、情報漏洩リスクも低減させることができます。また、紙を作る際に使用されるバージンパルプ材の使用量削減及び輸送により発生するCO₂・排気ガスの排出量や化石燃料の使用量の削減など、環境負荷の低減にも貢献することが期待されます。

持続可能な社会の実現に貢献していくため、引き続

き、地域環境の保全や地球環境問題の課題解決につながる活動に積極的に取り組んでまいります。



ヴァンフォーレ甲府アカデミーのユニフォームスポンサーに



山梨県に長坂工場が、また、長野県には伊那工場と茅野工場の他、キッツグループの多くの事業所が所在しています。キッツは、これらの地域の子どもたちの育成に力を入れている地元のプロサッカーチーム、バレーボールチームを支援しています。

2013年より、サッカーJ2リーグ ヴァンフォーレ甲府（山梨県）を支援していますが、今シーズンは、育成組織であるアカデミー（U-18以下）のユニフォームスポンサーになりました。これからも、地域の振興と子どもたちの健全な育成、スポーツ文化の発展に貢献したいと考えています。

株主の皆様からのご支援に対する感謝の気持ちを込めて、株主優待を実施しています。
(3月末現在、保有株式数1,000株以上の株主様が対象)

① オリジナルクオカード



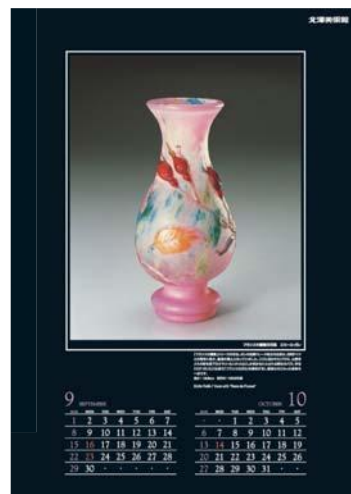
1,000株以上 2,000株以上 3,000株以上
1,000円券 1枚 2,000円券 1枚 3,000円券 1枚

② グループ会社優待券

キッツグループの商品・サービスより、家庭用浄水器及びホテルの各種優待券をご用意しています。
また、キッツが社会貢献活動の一環として、その活動を支援している北澤美術館の招待券を進呈しています。



③ 北澤美術館 ガラス工芸品カレンダー 1部



● 長期保有株主優待

2019年3月末現在、5年以上かつ1,000株以上保有されている株主様につきましては、①～③の優待に加え、北澤美術館 日本画カレンダーの大判サイズまたは卓上サイズ、日本赤十字社への寄付よりいずれか1点をお選びいただけます。

● 新規株主様への優待

9月末までに、新規で1,000株以上保有された株主様に、北澤美術館 ガラス工芸品カレンダー1部をお送りいたします。

会社概要 (2019年3月31日現在)

商号 株式会社キッツ
本社 千葉県千葉市美浜区中瀬一丁目10番1
TEL (043) 299-0111 (大代表)
代表者 代表取締役社長 堀田 康之

資本金 21,207,084,670円
設立年月日 1951年1月26日
従業員数 (単体) 1,290名
(連結) 4,945名

■ ウェブサイトのご案内

企業情報の他、決算情報や財務データなどを掲載しています。

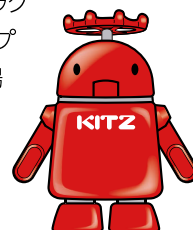


<https://www.kitz.co.jp/>



企業PRキャラクターのご紹介

企業イメージ向上のために作られた、バルブの「菊ハンドル」をモチーフとしたキャラクター「きくまる」。これまでも、展示会のブースや販売促進ツール等で“活躍”してきましたが、今後、企業PRキャラクターとして、各種プロモーションの場で積極的に活用してまいります。



株式の状況

● 発行可能株式総数 400,000,000株

● 発行済株式の総数 95,571,302株

(注) 上記の発行済株式の総数には、当社が2019年3月31日に保有する自己株式4,825,209株を含めておりません。

● 株主数 10,308名

● 大株主(上位10位)

株主名	当社への出資状況 持株数(千株) 持株比率(%)	
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	9,053	9.47
北沢持株会	4,414	4.62
日本生命保険相互会社	4,303	4.50
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	3,946	4.13
住友生命保険相互会社	3,444	3.60
公益財団法人北澤育英会	3,411	3.57
キッツ取引先持株会	2,989	3.13
株式会社三井住友銀行	2,553	2.67
GOVERNMENT OF NORWAY	2,347	2.46
THE BANK OF NEW YORK MELLON 140051	2,328	2.44

(注) 1. 当社は、2019年3月31日現在、自己株式4,825千株を保有しており、上記大株主から除外しております。また、持株比率は、発行済株式の総数から自己株式を除いて計算しております。なお、当社は、「役員報酬BIP信託」を採用しており、日本マスタートラスト信託銀行株式会社が当社株式329千株を保有しておりますが、当該自己株式には含めておりません。

2. 上記の持株数には、信託業務に係る株式を次の通り含んでおります。

日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 9,053千株
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 3,946千株

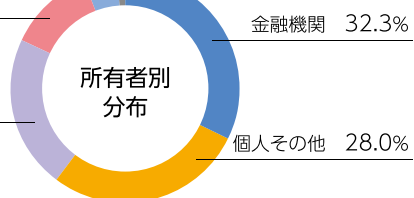
3. 住友生命保険相互会社の持株数には、変額口9千株及び特別勘定24千株を含んでおります。

金融商品取引業者 0.9%

自己名義株式 4.8%

その他国内法人 12.1%

外国法人及び
外国人 21.9%



期末配当金のお支払について

2019年5月29日開催の当社取締役会におきまして、第105期の期末配当金について、以下の通り決議されております。

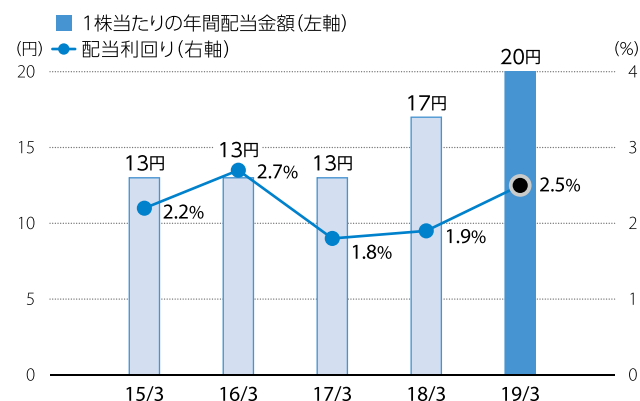
期末配当金:1株につき 金12円

効力発生日ならびに支払開始日:2019年6月7日(金)

同封の「第105期期末配当金領収書」により、払渡しの期間(2019年6月7日～2019年7月8日)内に最寄りのゆうちょ銀行または郵便局でお受け取りください。また、銀行等口座振込をご指定の方には、「第105期期末配当金計算書」及び「配当金振込先のご確認について」の記載をご確認いただけますよう、お願い申し上げます。

配当方針(2019年5月、配当方針を変更)

キッツは、配当金を、株主の皆様への利益還元として経営上の重要課題と位置づけており、連結配当性向については、親会社株主に帰属する当期純利益の35%前後を望ましい水準といたします。なお、自己株式の取得につきましては、中長期の成長のための必要な投資額等を考慮した上で、株式市場及び当社株価の動向、手元資金の状況等を勘案し、適宜検討いたします。今後も、株主様への利益還元をより一層充実させてまいります。



株主メモ

事業年度 4月1日～翌年3月31日
定時株主総会 6月
基準日 定時株主総会議決権 3月31日
期末配当金 3月31日
中間配当金 9月30日
その他必要ある場合は、あらかじめ公告いたします。

公告掲載方法 電子公告
公告掲載URL(<https://www.kitz.co.jp/>)
ただし、やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

単元株式数 100株

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関
同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
東京都府中市日鋼町1-1
郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
電話 0120-232-711(通話料無料)

(ご注意)

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、左記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取り扱いいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。